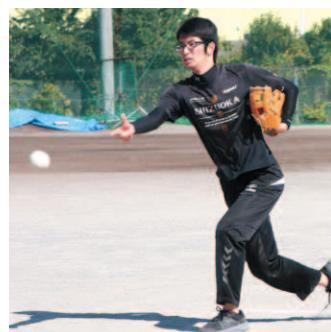




DAIDO CAMPUS

No.95 2018.12



写真提供: アルバム委員会

採用

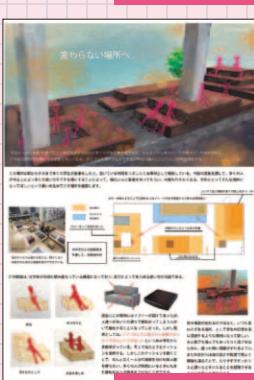
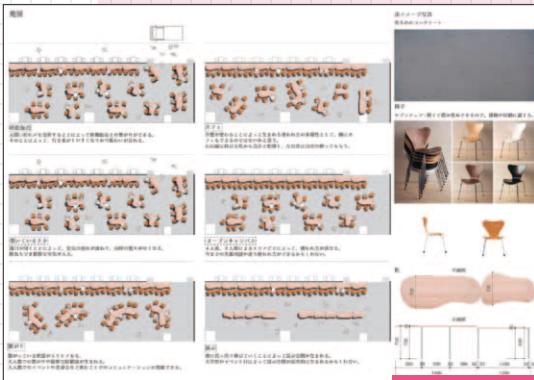
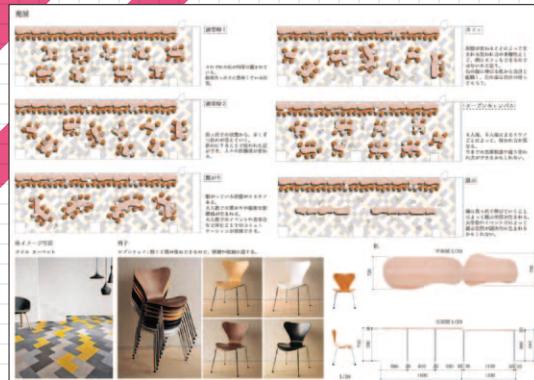
繋がり、溢れる。



繋がり、溢れ、飛び出す。



村松 洋貴さん



▲不規則で面白い机のフォルム、利用者それぞれの気持ちに合った空間になること、他にない提案であることなどが評価されました。

松原 成佳さん

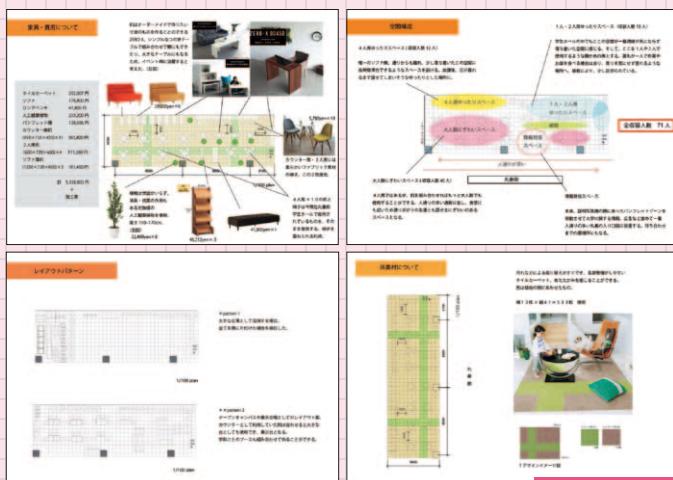
林 夕紀子さん

B棟1階丸善前 学生ホール 空間デザイン(内装設計)提案 コンペを開催しました!

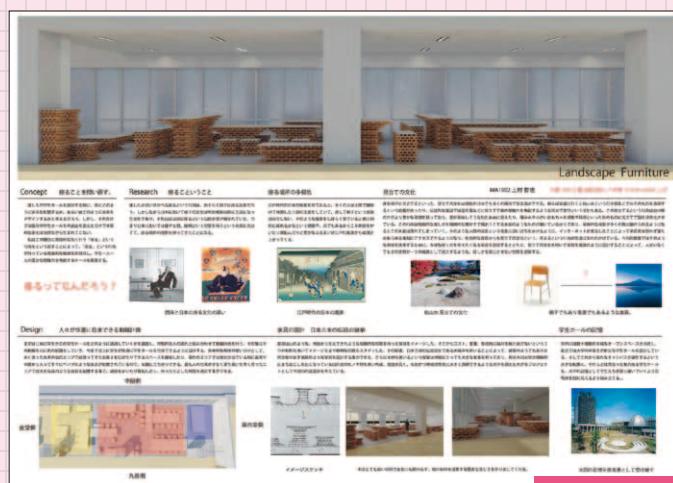
11月20日(火)第一会議室にて、B棟1階丸善前学生ホールの空間デザインについて、応募者によるコンペが行われました。

後援会の援助を受けてB棟1階丸善前学生ホールの改装をするにあたり、学生室が4月より空間デザインの提案を募集したところ、応募者5名による6提案がなされました。

審査員は、後援会副会長、学生部長、学生代表2名です。スーパーアドバイザーとして武藤隆建築学科長も同席しました。プレゼンテーションは1提案につき、発表5分、質疑応答10分で行われ、その後、審査員による話し合いで評価された結果、見事工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 松原成佳さんの提案が採用されました! 松原さんは、11月30日(金)の後援会役員会でもプレゼンテーションを行いました。今後、改裝業者との打合せ等、中心となって進めていき、さらに案を練っていきます。なお、改裝の完成時期は2019年3月を予定しています。



渡瀬 友梨さん



上村 哲也さん



応募学生 松原成佳、村松洋貴、林夕紀子、渡瀬友梨、上村哲也

第55回錦杯学内レガッタ大会が開催されました

通算55回目となる本学伝統の「レガッタ大会」が11月4日(日)に行われました。

あいにくの雨天の中、各チーム1レースのみ行われ、順位はタイムで競われました。クラブの部から7チーム、一般の部から9チームが参加しました。5人1組で漕ぐレガッタは、5人の息をいかに合わせるかが重要で、力任せに漕げばよいわけではありません。ボートを漕いだことのない学生も多く、当初は戸惑いの表情を浮かべるチームもありましたが、少し慣れてくるとみんな真剣に楽しそうに漕いでいました。



写真提供:アルバム委員会



結果

順位	クラブの部	一般の部
1位	EDPS部	山田錦
2位	sfz2(吹奏楽団)	筋肉室
3位	DMSC(自動車部)	学生室

平成30年度体育祭が開催されました

10月20日(土)、21日(日)の2日間で体育祭が開催されました。

今回は、テニス(シングルス・ダブルス)、バスケットボール、キックベース、ソフトボール、卓球、バトミントンの7競技と、ミニゲーム、抽選会が行われました。

秋晴れの下、2日間で教職員も含む、のべ729名が参加しました。どの参加者も爽やかな汗を流し、充実した2日間を過ごしたようです。



写真提供:アルバム委員会

競技結果

テニス(シングルス)

- 1位 卓球部
2位 ミステリアスな・お・と・こ♡

テニス(ダブルス)

- 1位 バジリスク
2位 きんにく室

バスケットボール

- 1位 お嬢
2位 土木2年
3位 にんじん

キックベース

- 1位 ヒットエンドラン
2位 ケバブ

ソフトボール

- 1位 チームSZK
2位 チーム石井
3位 チーム田中

卓球

- 1位 豊田 将也
2位 吉田 諒
3位 辻村 浩介

バドミントン

- 1位 岡崎ジョイフル
2位 S科初心者代表
3位 ジャスタウェイ

男女ハンドボール部

東海学生ハンドボール秋季リーグ戦 女子準優勝! 男子3位! ともにインカレ出場!

10月6日(土)、7日(日)に中部大学にて、東海学生ハンドボール秋季リーグ戦の最終戦が行われ、本学の女子ハンドボール部が準優勝、男子ハンドボール部が3位となりました。また、11月9日(金)から開催された全日本インカレに男女ハンドボール部がお出場しました。

女子の最終戦は春リーグ同様、お互い全勝同士での対決となりました。【大同大学 21(7-11、14-16)27 中京大学】スタートから速いパス展開で大同大学の攻撃が始まり、リードを奪います。しかし途中追いつかれ、後半でも点差を縮められないままタイムアップとなり、惜しくも準優勝という結果になりました。4年生には最後のリーグ戦となりましたが、ベストセブンにも選ばれ、最後までチームを引っ張る活躍をしました。

男子の最終戦は、前半に4点差をつけ、優位に進め、後半に入りても、終始3点リードでゲームが進みました。しかし試合終了まで10分のタイミングで退場者が出てきたところで流れが変わり、【大同大学23(14-10、9-14)24 中部大学】で1点差の惜敗で3位となりました。

大会期間中は、大学関係者や学生が普段ハンドボールを教えていたる東海学生ハンドボールスクールの会員、父母、OB、大同グループ関係者が会場に集まり、一体となって声援を送りました。また、日本一の応援と称される男子ハンドボール部の応援に、地元の小学生も一緒に声援を送りました。



写真提供:アルバム委員会

個人賞受賞者

女子

- ベストセブン: 山口 遥さん(4年)
熊谷 美希さん(4年)

吉見春輝さん(情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

カヌーポロ男子U-21日本代表として世界選手権大会に出場しました

カヌーポロ男子U-21日本代表として、コンピュータサイエンス専攻3年の吉見さんが、7月31日(火)～8月5日(日)にカナダのウェランドで行われた2018年ICFカヌーポロ世界選手権大会に出場しました。

カヌーポロとは、1人乗りのカヌーに乗って水上で行う、ハンドボールとバスケットボールを融合したようなスポーツです。カヌーに乗った5人が1チームとなり、垂直に立てた板のゴールにシュートをし得点を競い合います。

今回の男子U-21世界選手権大会の参加チーム数は16チームで、4つのグループに分かれ予選リーグが行われました。日本チームは予選リーグでフランス、ニュージーランド、カナダと対戦しました。フランス戦は1-5、ニュージーランド戦は3-6で敗北しましたが、カナダ戦では6-1で勝利し、目標にしていた予選リーグ突破を果たすことができました。進出した上位リーグでは残念ながら全敗し、最終的な順位は16チーム中12位でした。

吉見さんは「アジア選手権に出場した際にはそれほど感じなかった体の大きさとフィジカルの強さが、世界選手権レベルでは致命的な差となって表れました。U-21より上のカテゴリーはフル代表しかないので、再び日本代表に選ばれるようトレーニングを重ねて、競技を続けていきたいです。」と語っていました。

関連記事:

[カヌーポロU-21日本代表に2年連続で選出されました!](#)



▲試合中の様子

カヌーポロがどのようなスポーツか
気になる方はこちらをご参照ください

[全日本カヌーポロ選手権大会男子決勝 前半](#)



吉見春輝さん
(情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

みよし市長へ カヌーポロ男子U-21世界選手権 大会の報告を行いました



▲右から2番目:吉見さん

8月にカナダのウェランドで行われたカヌーポロ男子U-21世界選手権大会に出場した本学コンピュータサイエンス専攻3年の吉見さんが、9月25日(火)にみよし市長を訪問し、大会の報告を行いました。

吉見さんはみよし市の出身で、小学生の頃から市内のクラブチームでカヌーポロを続けてきました。みよし市は1994年のわかつやま国体を契機に「カヌーのまち、みよし」を掲げており、地元三好高校のほか、市内3つの中学校にもカヌー部があるほど、カヌーが盛んです。

みよし市の小野田市長に大会の結果を報告した吉見さんは、「たくさんの応援を頂いたが、結果は16カ国中12位だったということで、期待に応えられなくて残念でした。競技は続けていくので、今度は結果を出せるように頑張りたい」と雪辱を誓っていました。

田中隆太郎さん(工学研究科 修士課程)

7th International Conference on Fracture Fatigue and Wear FFW2018で研究発表を行いました

7月9日(月)、10日(火)にGhent University(ベルギー、ゲント市)で開催された「7th International Conference on Fracture Fatigue and Wear FFW2018」で大学院 工学研究科 修士課程2年 宮本潤示研究室 田中隆太郎さんが研究発表を行いました。



▲田中さん

発表タイトルは「Bright Nitriding of Tool Steels by High Electron Density Plasma」で、鋼を窒化した際に形成する化合物層に着目して、その制御法の提案と形成された窒化層の機械的特性について報告しました。

なお、田中さんは公益財団法人永井科学技術財団より人材育成を目的とした大学院生海外研修助成金を受けての発表となりました。



▲発表前の記念写真

伊藤絢哉さん、鞠千里さん(工学研究科 修士課程)

日本機械学会2018年度年次大会で研究発表を行いました

9月9日(日)～12日(水)に、関西大学で開催された、日本機械学会2018年度年次大会で、大学院 工学研究科 修士課程 坪井涼研究室の伊藤絢哉さん、鞠千里さんが研究発表を行いました。

伊藤さんが、セッション「機素潤滑設計部門 第24回卒業研究コンテスト」で「タイリング加工を用いたテクスチャ表面における流体潤滑特性に関する研究」と題して、鞠さんが、セッション「機素潤滑設計部門 トライボロジーの基礎と応用」で「表面テクスチャリングを用いたピストン・シリンダーの死点付近の摺動特性向上に関する研究」と題して発表しました。

なお、同大会で坪井涼准教授がセッション「機素潤滑設計部門 トライボロジーの基礎と応用」で「テクスチャ表面がEHLの表面形状変形に及ぼす影響についての数値シミュレーション」と題して発表しました。

伊藤絢哉さん、山根和也さん(工学研究科 修士課程)

「第9回トライボロジー秋の学校 in 愛知」でポスター発表しました

10月4日(木)、5日(金)に、あいち健康プラザで開催された「第9回トライボロジー秋の学校 in 愛知—集まれ!若きトライボロジスト!—」において、本学の学生2名がポスター発表を行いました。

このイベントでは、トライボロジーに携わる若手の研究者や学生が交流を深めるため、研究成果発表・企業技術展示・基調講演が行われました。本学からは、大学院 工学研究科 坪井涼研究室 1年 伊藤絢哉さんが「流体潤滑下における複数ディンプルの動圧発生効果に関する研究」と題して、同じく宮本潤示研究室 1年 山根和也さんが「電子ビーム励起プラズマ窒化された工具鋼の表面性状に関する研究」と題して発表しました。



▲伊藤さん

▲山根さん

谷口卓由さん(工学研究科 修士課程)

論文が電気学会B賞に選定されました

9月3日(月)、4日(火) 名城大学にて開催された、平成30年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会で、大学院 情報学研究科 修士課程 不破勝彦研究室 2年 谷口卓由さんの論文「原点零点と減衰係数を考慮した外乱オブザーバの設計」が、「電気学会B賞」に選定されました。

本内容は、原点零点配置と減数係数を考慮することができる従来にはない新しい外乱オブザーバの設計法を提案しています。従来法に比べて低次元の制御器にて全く同等の外乱抑制性能を達成できる点が特徴であり、制御器のコストダウンに貢献できるものと考えております。

なお、表彰式及び懇親会は、1月22日(火)に行われる予定です。

石黒稜人さん(工学研究科 修士課程)

日本機械学会2018年度年次大会で論文発表しました

9月9日(日)～12日(水)に関西大学千里山キャンパスで開催された日本機械学会2018年度年次大会で大学院 工学研究科 修士課程2年 大嶋和彦研究室 石黒稜人さんが論文「圧電素子の正・逆圧電効果を利用した静荷重センサの開発」を発表しました。

発表では聴講者からいくつも質問が投げかけられ、研究に対する関心の高さを感じました。石黒さんは種々の質問に対して的確に回答し、発表セッション終了後も質問者とのディスカッションで盛り上がりました。

谷口真伍さん、新井田篤さん(工学研究科 修士課程)
杉原拓実さん(機械工学科)

第4回学生鋳物コンテストに参加しました

9月9日(日)、10日(月)に岩手大学にて第4回学生鋳物コンテストが開催され、前田安郭研究室の大学院 工学研究科 修士課程 1年 谷口真伍さん、新井田篤さん、機械工学科 4年 杉原拓実さんが参加しました。

コンテストでは大学、高専の研究室に属する4年生以上から修士課程2年生までの学生で構成されたチームで、用意された任意の模型(木型)と湯道、堰、押湯などを用いて、造型(生型)、鋳込み(アルミニウム合金)、解枠を行い、その鋳物の出来映えを競い合いました。



▲コンテストの様子

小川裕也さん、早川莉菜さん(電気電子工学科)

電気学会東海支部連合大会で研究発表を行いました

9月3日(月)に名城大学天白キャンパスで開催された平成30年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会にて電気電子工学科4年 植田俊明研究室の小川裕也さんと早川莉菜さんが研究成果を発表しました。

小川さんの発表タイトルは「風車ブレード耐雷性能向上のためのレセプタ形状に関する検討」で風車ブレードモデルを使用した雷撃実験結果を報告し、早川さんの発表タイトルは「送電鉄塔の雷遮蔽性能向上に関する検討」で鉄塔の1/20縮小モデルを使用した雷撃実験結果について報告しました。発表会場は満席で立ち見が出るほどでしたが、二人とも臆することなく堂々と発表していました。



▲左から:早川さん、小川さん

永吉沙耶さん (情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻) 海外のコンペで コレクター賞を受賞しました

プロダクトデザイン専攻 4年 永吉さんがMEDALLIC ARTの国際会議「THE FUTURE IN HAND / Third International Medallic Sculpture Competition for Emerging Artists」で「コレクター賞(Frederic Withington Award for The Most Creative Mind)」を受賞しました。この賞は世界中から作品が集まる中で選ばれる名誉ある賞です。

以前から「目玉焼」をテーマとした作品を多数制作しており、今回はそのこだわりが認められ、受賞に至りました。審査員のFrederic Withingtonさんは「A marvelous merging of technology and imagination.(技術と想像力の驚異の融合)」と講評しています。

なお、受賞作品一同がEXHIBITION TOURとして2019年本学の展示室で展示される予定です。世界中から集まり、受賞した力強い作品を間近に鑑賞できることを楽しみにしてください。

永吉さんの受賞作品は
こちらから
ご覧いただけます。



▲永吉さん

レーシングカート部 第23回全国学生カート選手権で 史上最多6回目の総合優勝!



▲ゴールした際の様子
は写真付きで大同大学の優勝を伝える記事が掲載されました。

全国学生カート選手権は、学生カーターたちの年に一度のビッグイベントで、今年は全国14大学の学生と卒業生の男女50名が出場しました。

毎年開催されるこの大会は学生がスポンサー集めや会場の運営を行って実施されており、23回目の今年は本学のレーシングカート部を中心に運営の準備が進められてきました。

レースは車種や質量別の3部門があり、各クラスの上位入賞者にポイントが振り分けられる仕組み。本学はFD-OPENクラスで1~3位を独占するなどして、見事総合優勝を手にしました。

ドライバーも務めたレーシングカート部部長の岩花拓海さんは、「昨年はチームとしても個人としても優勝ができず悔しい思いをしましたが、雪辱を果たすことができ本当にうれしい。運営の準備を頑張ったことで神様からご褒美をもらえたのかも。」と笑顔で話していました。

ロボット研究部

「第2回東海市ものづくり道場」で ロボット操縦体験会を実施しました

8月9日(木)に行われた東海市教育委員会が主催する「第2回東海市ものづくり道場」にてロボット研究部が小学生を対象にロボット操縦体験会を実施しました。参加したのは部長で2年の浅井涼太郎さん、同じく2年 斎藤光さん、豊福拓哉さん、山路哲也さんの4名です。「ものづくり道場」は小学生を対象に、ものづくりへの興味・関心を持ってもらうことを目的に行われています。

ロボット操縦体験は子ども達に大人気で常に長蛇の列ができるおり、アンケートにおいてもロボットの操縦がとてもおもしろかったという意見が多数ありました。担当した学生も、子供たちの予想以上の関心の高さに大きな達成感を得ることができました。



▲体験の様子

小池まいさん(建築学科 土木・環境専攻)

10/28(日)付中日新聞で 不登校の子どもの居場所つくりの 取り組みが紹介されました

土木・環境専攻3年の小池まいさんが出身高校の同級生たちで、不登校の子どもの「居場所づくり」に取り組んでいることが、10月28日(日)付の中日新聞で取り上げられました。

小池さんたちは、自らの経験を基に、学校に居場所を見つけられず悩んでいる不登校の子どもたちを支援しています。



▲10月28日(日)付 中日新聞

活動のきっかけは、取り組みの代表を務める小池さんの同級生が、九州の定時制高校生が不登校の子どもの居場所をつくっていることをインターネットで知ったこと。「自分にもできるかも」と記事をフェイスブックで紹介したところ、小池さんが「あつたらいいね」と賛同し、活動が始まりました。二人はまず四日市市のこども未来課に相談し、市のこども子育て交流プラザ内で月2回、不登校の子どもの相談を受けたり一緒に遊びながら、不登校からの第一歩を後押しする活動をすることになりました。

昨年11月からは小池さんの誘いで同じ高校出身の仲間が加わり、現在に至ります。活動を始めて1年半で、不登校の生徒と会えたのは一人だけでしたが、この活動が新聞に掲載されたことで、



▲子どもたちとパズルで遊ぶ小池さん

早速、中学生の女の子が親子で相談に訪れたとのこと。

交流プラザを訪れる生徒が不登校であっても、「学校や家庭以外で話を聞いてもらえる場所があることが大切」と、子どもたちの悩みに耳を傾けています。

神保睦子学長

日本工業教育協会の 第66回年次大会で講演しました

8月29日(水)に名古屋工業大学にて、日本工学教育協会の第66回年次大会での企画「リケジョ de 訪問シリーズ 第2回 サロン」が開催され、神保学長が情報提供者として講演しました。テーマを「工学系の女性研究者として」と題し、理工系女性の教育事例や男女共同参画などの取り組みを参加者とランチをとりながら議論がなされました。

梶谷啓准教授(機械工学科)

設計工学会2018年度秋季大会研究 発表講演会にて研究発表を行いました

9月29日(土)、鳥取大学にて開催された設計工学会 2018年度秋季大会研究発表講演会で、梶谷准教授が研究発表を行いました。

梶谷准教授は、設計、開発のセッションで「飛越座屈現象を利用した弾性支持構造の動的特性」と題して講演しました。本研究は科研費「飛越座屈現象を利用した超高速ターボ機械用弾性支持軸受の開発」の助成を得て行ったものです。

また、本講演会においてセッション「設計、開発Ⅲ」の座長も務めました。

山田靖教授(電気電子工学科)

先端パワーエレクトロニクス技術 体系教育講座で講師を務めました

6月21日(木)～28日(木)の間の計6日間で開催された、NEDO委託事業の「先端パワーエレクトロニクス技術体系教育講座」の「アドバンスト・コース」(夏期)で、山田教授が講師を担当しました。

この講座は、パワーエレクトロニクス技術全体を俯瞰し、新たな発想に基づき今後の技術開発を牽引していく人材を継続的に育成することを目指しており、今回も企業の技術者など20名の受講者がいました。

山田教授が担当したのは5日目の6月27日(水)の、「パワーモジュール実装材料(接合材)」で、自動車の電動化に関する概要を述べたのちに、パワー半導体の接合に求められる要件に関して説明し、近年研究がおこなわれている接合技術を紹介しました。

光田恵教授、棚村壽三准教授(建築学科 かおりデザイン専攻)

石油学会情報誌「ペトロテック」 第41巻第9号に寄稿しました

石油学会より依頼を受け、9月発行の情報誌「ペトロテック」第41巻第9号に、光田教授と棚村准教授が「においの測定・評価方法」と題して寄稿しました。

におうという感覚を引き起こす現象を念頭に、複合臭である生活環境のにおいの測定・評価方法を解説するとともに、においの感じ方の特性、各においの評価指標の特徴、測定・評価の現状と課題について述べられています。

田中浩司教授(機械工学科)

日本金属学会技術開発賞を受賞し、 受賞講演を行いました

9月19日(水)～21日(金)、東北大学にて開催された日本金属学会秋季講演大会で、19日(水)に日本金属学会技術開発賞の受賞式が開催され、田中教授が受賞するとともに、受賞講演を行いました。

受賞の対象となったのは、「レーザク ラッドバルブシート用Coフリー Cu合金の開発」です。日本金属学会が発行している「まりあ」第57巻1号に掲載された後、日本金属学会の審査を経て受賞が決定しました。

この技術について、豊田中央研究所R&Dレビュー volume 49, Number 2(2018.6)に詳細な解説記事が掲載され、また、「まりあ」第57巻9号の特集「熱力学計算による構造材料の設計と展開」で、NIMS大沼 郁雄氏の特集において本開発材の解説が加えられました。

開発した合金は、溶融状態でCu液相から全く成分の異なる液滴が分離し、分散して凝固する過程で耐摩耗性粒子を形成します。耐摩耗性は硬質粒子の量や大きさに依存するが、その大小に対する各添加元素の熱力学的な指標を計算し、最適化した成分系を新型車の高効率エンジンのバルブシートへ搭載しました。

関連記事:

[APDIC Industrial Awardを受賞しました](#)

(田中浩司教授)



▲右から2番目:田中教授

渡邊慎一教授

(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

NHK「シブ5時」で 研究成果が紹介されました

7月4日(水)、NHKの夕方のニュース番組『シブ5時』(毎週月～金、16:50～放送)の特集コーナー『女性も! 男性も! 日傘のギモンに答えます』で、渡邊教授の研究成果が紹介されました。

番組では、日傘による紫外線カットの効果について、渡邊教授の研究データに基づいてグラフや写真を使って紹介。日傘をさすことによって紫外線をカットできることや、熱中症が低減できることが解説されました。



▲番組で紹介された様子

武藤隆教授(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

とよた市民アートプロジェクト『Recasting Club』の公開ステップアップレクチャーで講演しました

6月23日(土)、とよた大衆芸術センター(TPAC、旧・波満屋旅館)にて開催された、とよた市民アートプロジェクト『Recasting Club』の公開ステップアップレクチャー vol.1「建築家に聞く、アートプロジェクトにおける建築利活用について」で武藤教授が講演しました。

『Recasting Club』は、豊田市が市民を中心に立ち上げた「とよた市民アートプロジェクト」によるアートプロジェクトです。豊田のまちのスペースに様々な異なる役を与えて、新しい「場／クラブ」を創造していく新たな活動で、ステップアップレクチャーはRecasting Clubの活動を進める中でヒントとなる〈目からウロコ〉の知識や知恵を、多様なジャンルのゲストによって解説するトークシリーズです。

第一回目のテーマは、「建築家に聞く、アートプロジェクトにおける

建築利活用について」。

武藤教授を含むゲストの建築家3名は、これまで建築物を建てるだけでなく、空き屋を展覧会場にしたり、民家を店舗にリノベーションしたりするなど、既存のさまざまな状態の建物をまさしく〈Recasting〉してきた専門家です。この縁の下の力持的な3名の建築家が、アートプロジェクトにおける建築の利活用について話しました。

武藤隆教授は、あいちトリエンナーレなどの芸術祭における会場整備の考え方や、テクニカルな侧面について、様々な事例をあげて解説しました。

[Recasting Clubについてはこちら](#)



渡邊慎一教授
(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

日本生気象学会で論文賞を受賞しました

10月26日(金)～28日(日)に京都府立大学で開催された第57回日本生気象学会大会において、建築学科の渡邊教授が論文賞を受賞しました。

受賞対象論文は「全国の公立小学校の運動会開催時期と熱中症の危険度評価」(渡邊慎一・石井仁の連名)です。

この論文は、全国の2万校を越える公立小学校のHPを丹念に調査し、各校の運動会開催日を特定し、その時の暑さ指数から熱中症の危険度を評価したものです。熱中症が社会問題となっている現在、熱中症の予防に寄与する研究として高く評価されました。



▲論文賞表彰式の様子: 左から渡邊教授、星秋夫 学会長、石井仁 名城大学教授

竹内義則教授
(情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

日本スポーツ産業学会奨励賞を受賞しました

竹内教授のスポーツ産業学研究 第27巻 第3号に掲載された論文「体育館天井に設置された1台のカメラによる卓球ゲーム分析」に対して日本スポーツ産業学会奨励賞が授与されました。

論文では、公益財団法人日本卓球協会がオリンピック委員会エリートアカデミーに所属する選手について練習中のパフォーマンスを評価するために卓球練習場の天井に1台のビデオカメラを設置しているが、この映像を選手のパフォーマンス向上に有効利用するための方法に関する研究が見当たらないことから、映像からボールの軌跡などの情報を自動処理によって高速に推定することを目的とし、選手の競技力向上に利用するための資料の作成を試みています。



▲日本スポーツ産業学会奨励賞の賞状

山口一教授(建築学科 かおりデザイン専攻)

空気調和・衛生工学会大会にて発表しました

9月12日(水)～14日(金)まで本学にて開催された公益社団法人空気調和・衛生工学会において、山口教授が研究発表を行いました。

山口教授は、13日(木)に「微生物・アレルゲン」のセッションで「再生医療施設でのDNA夾雜物の測定とその不活性化、(第2報)ラボスケールでの検証」と題して、清水建設と共同で発表しました。以下、山口教授の解説です。

iPS細胞やES細胞等を取り扱う再生医療施設では、少量の細胞を遺伝子操作等の処理後に増殖させる必要がありますが、DNA等の核酸夾雜物がこれらの細胞に混入すれば、目的としない細胞の増殖やガン化の危険性も否定できず、製品の歩留りの低下や安全性が

懸念されていました。核酸夾雜物はヒト(皮膚など)やカビ・微小生物に由来する他、施設内で使用される別の細胞からDNAが漏洩し、施設内へ浮遊したり建材や器具等に付着すると考えられます。

DNA等の核酸夾雜物は無色・無臭であり、施設内に存在する核酸夾雜物を処理する場合に、どの程度の成果を得たかを検証することは非常に困難でした。第2報では、リアルタイムPCRによる測定系だけでなく、核酸夾雜物の分解処理法について検討しました。

再生医療施設などの夾雜DNA分解については新しい技術であり、出席者の関心が高く、多くの質問を頂きました。

光田恵教授(建築学科 かおりデザイン専攻)

テレビ愛知「サンデージャーナル」で におい対策について解説しました

7月22日(日)、テレビ愛知「サンデージャーナル」(毎週日曜日15:00~放送)に光田教授が出演し、夏に気になる「におい」の対策について解説しました。

番組で光田教授は、愛知県の「悪臭苦情件数」が東京や大阪よりも多い理由として、愛知が工業、農業、畜産業がさかんである一方、「におい」の発生しやすいこれらの産業と住宅地が近接していることを挙げ問題提起しました。また、「嫌なにおい」を他の強いにおい成分で覆い隠す「マスキング」という手法ではなく、悪臭をかおりの一部分として捉え、様々なかおりと混ぜて新しい良いかおりに変えてしまう「変調」という手法を取り組んでいる本学学生の取り組みを紹介し、この方法が様々な場面で活用されていることを解説しました。加えて、最近、においが注目されている原因について、2004年のノーベル賞を紹介し、その後の研究の目覚ましい進歩からにおいに秘められた多くの可能性が見いだされつつあり、においの魅力が高まっている点を解説しました。

出演の様子▶



取材の様子▶



新刊紹介

「実践的技術者のための電気電子系教科書シリーズ 制御工学」

不破勝彦教授(情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

不破教授が豊田工業大学の成清辰生特任教授と執筆した書籍「実践的技術者のための電気電子系教科書シリーズ 制御工学」が理工図書より発刊されました。

本書では、制御理論を修得するうえで理解しておかなければならない基礎的な事項を、制御システムの解析と設計の観点から解説しています。

近年、コンピュータの進展に伴い、制御系CADなどのソフトウェアも整備され、高度な制御理論を駆使して比較的容易に実際の問題に対処できるようになってきています。その一方で、何らかの原因で目標の制御性能が達成できない場合、その原因を追究するためのバックグラウンドを持ち合わせていなければ、問題に対処することは困難です。本書は、読者が段階を踏んで読み進めば、十分な理論的バックグラウンドを身につけられるよう、制御理論の数学的基礎、制御系の解析、制御系設計法、およびその応用までを体系的に網羅している構成となっています。

岡田心准教授(情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

テレビ朝日

「羽鳥慎一のモーニングショー」に 出演しました

7月24日(火)、テレビ朝日「羽鳥慎一のモーニングショー」(毎週月~金、8:00~放送)に岡田准教授が出演しました。

番組内のコーナー「~羽鳥が現場へ直行!~聞きトリ」で、伝統&町工場の技術で誕生した土鍋「ベストポット」を取り上げ、その製作に関わった株式会社中村製作所の山添さんの紹介がなされました。

「ベストポット」は、三重県四日市市で作られる「萬古焼」の鍋に「鉄鑄物」のフタを組み合わせて作った土鍋です。そのフタを山添さんが、口ケットのエンジン部分を加工する高い技術で削ることで、土鍋を密閉することができ、蓄熱調理と無水調理を可能にしています。

岡田准教授は「削りのプロ。すばらしい技術を持っている」と、この高い技術に惚れ込み、土鍋づくりの後押しをした人物として紹介されています。岡田准教授は以前にも、中村製作所の日本の新しいチタン印鑑「SAMURA-IN(サムライン)」の開発に携わっており、今回の「ベストポット」の開発にも製品デザインなどで携わりました。

放送内容の詳細は[こちら](#)



▲出演の様子

著者:成清辰生、不破勝彦
出版社:理工図書
発行日:2018年8月27日
B5,245ページ
ISBN978-4-8446-0876-9C3054
定価:3200円(税別)



小島一宏准教授(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) 「夏休みに映画を観よう!」パネルを 展示しました

7月14日(土)～8月10日(金)、B棟1階の食堂にて「夏休みに映画を観よう!」パネルの展示を行いました。

毎年、夏休み前に実施している本展示では、小島准教授が2012年から毎日新聞に連載している「芸術食堂」(新作映画の紹介記事)の中から、特に学生たちに見てほしい洋画・邦画14本を厳選。小島研究室の学生らのオススメコメントも付けて、B1パネル全5枚で紹介しました。



上岡和弘教授(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) 日本広告学会中部部会で 研究報告をしました

9月21日(金)に名古屋学院大学にて開催された、日本広告学会2017学会年度第3回中部部会で、上岡教授が『名古屋市南区における、「高齢者、孤立しない・させないプロジェクト』への取り組み』と題した研究報告をしました。

このテーマは、名古屋市南区と連携し研究開発を行っている、高齢者孤立防止支援プロジェクトであり今年で3年目になります。1年目の2016年には、孤立高齢者に対応した訪問ヘルパー向けドアオープナーツール「南区いきいきMAP」を学生と共に開発制作し、2年目の2017年には、高齢者見守り支援啓発動画「見守り実況中継 学生編・主婦編」を学生や技術員と共に制作しました。3年目の今年は、南区役所、南区社会福祉協議会などから成るアクションプラン策定会議に参加し、2019年実施に向け研究を進めています。

テーマの意義は、『地域の社会的課題である高齢者支援を、本人だけでなく他者へもどうアピールし巻き込んでいくか』であり、そのためにはコミュニケーションのコンテンツ、接触メディアの効果的な選定方法や独自メディアの開発など、研究開発および制作は多岐に渡ります。報告後はこのテーマの重要性や将来性について、他大学の先生方や愛知広告協会、広告代理店などの学会員と様々な意見交換が行なわれました。

酒井陽一名誉教授(教養部 化学教室)

国際学会で招待講演を行いました

8月1日(水)、仙台国際センターで開催された43rd International Conference on Coordination Chemistry(第43回錯体化学国際会議、ICCC2018)で、酒井陽一名誉教授が、“Study on valence fluctuation through electron hopping in mixed-valence trinuclear iron (Fe^{3+} , Fe^{3+} , Fe^{2+}) pentafluorobenzoate complex crystals containing solvent molecules by ${}^{57}\text{Fe}$ Mössbauer spectroscopy”と題する招待講演を行いました。教養部化学教室の高山努教授、小木曾了非常勤講師の二人のほか学外の研究者(東レリサーチセンター、東邦大学)との共同発表です。この国際会議は世界各国から約2500人の参加者がいました。錯体化学をさらに30近くの専門テーマに分割したパラレルセッションで運営されましたが、セッションごとに数件の招待講演が選ばれました。



発表スライドの第1枚目(上段左は国際会議のロゴ、赤い武将は伊達政宗)と会場案内板の前に立つ講演者



澤岡昭名誉学長

10/12(金)NHK総合 「ニュース7」でソユーズの 打ち上げについて解説しました



10月12日(金)、NHK総合「ニュース7」(毎週月～日19:00～19:30放送)に専門家として澤岡名誉学長が出演し、解説しました。

▲出演の様子
ロシアの宇宙船ソユーズの打ち上げ失敗を受け、澤岡名誉学長はソユーズを取り巻く課題について「ソユーズを製造管理する技術者および実際に作る職員の高齢化により全体のポテンシャルが低下傾向にある」とコメントしました。

女子ハンドボール部 齊藤慎太郎監督(総合情報学科 経営情報専攻)

2018 ハンドボール女子世界学生選手権にて日本史上初の優勝に導きました

7月30日(月)～8月5日(日)までクロアチアにて開催された、第24回世界学生選手権に出場したU-24日本代表チームにおいて本学女子ハンドボール部の齊藤監督がコーチを務め、日本ハンドボール史上初の優勝へ導きました。

A、B両グループから上位2チームが決勝トーナメントに進出できる予選Aグループではブラジルに敗れ2位で通過。しかし、準決勝でBグループを1位で通過した韓国を破り、迎えた決勝では再びブラジル

と対戦し、27-19で見事リベンジを果たし初優勝を決めました。

これまで日本のハンドボールは全てのカテゴリーにおいて国際大会におけるメダルの獲得はなく、初めてのメダル獲得が見事金メダルの快挙となりました。

本大会のホームページでは、齊藤監督が選手に胴上げされる写真とともに日本の快挙を称える記事が掲載されました。

機械システム工学科

機械工学実験において実験モード解析による機械振動実験を新しくスタート

2018年度より機械システム工学科の機械工学実験において、実験モード解析による機械振動実験を新しくスタートさせました。以下、担当の篠原主勲准教授からのレポートです。



▲実験の様子

洗濯機(乾燥機)、冷蔵庫、空調機(扇風機)、掃除機などの家電製品などが動作するためには、動力源を必要とします。動力源にはモータを必要とし、このモータが家電製品の機械的な振動や騒音を引き起します。一方で、家電製品などの構造物の低コスト化による重量低減の影響で、構造物の剛性は低下し、構造物は振動に弱くなる傾向にあります。そのため民間企業では、振動対策として、実験モード解析より家電製品などの振動を分析することが一般的になりました。

実験モード解析は広く民間企業に受け入れられているにも関わらず、実験モード解析の実験装置は、大変高価であるため、大学教育としての導入は大変困難でしたが、工学実験新規テーマを導入するにあたり、F-MAC/丸文株式会社 竹井俊樹氏が日本市場に紹介した実験モード解析ソフト『ModalVIEW』を、格安で提供頂くことができました。また平成29年度投資計画を通して、本学に高額予算を拠出頂きました。以上のことから、大学教育としての実験モード解析を実現させることができました。

実験モード解析の装置の構成は、アンプ内蔵型加速度センサ、モーダルハンマー、CompactDAQシャーシ、音響/振動入力モジュール、ModalVIEW解析ソフトウェアからなります。振動実験内容は①理論計算式による手計算②Solid Works(CAE)を使った有限要素法による解析③機械振動装置を用いた実験モード解析からなります。3つの異なるアプローチより、試験体の固有振動数および固有モードの結果比較を通じ、振動に対する理解を深めることができます。この実験の目的です。

実験作業は、5人～6人程度のグループの作業であり、学生が装置をセットするところから興味深く取り組んでいます。治具等による試験体設置、加速度センサの取り付けや、解析環境の設定、ハンマリングなどの様々な作業を必要とします。これらの作業を効率よく実施するためには、分担作業による協調性やコミュニケーション力も必要となります。加振時にハンマーで試験体を打撃しますが、この打撃時にダブルハンマリング(2度たたき)が生じるため、学生は加振方法を一生懸命工夫しながら実験します。本振動実験の経験が予備知識となり社会に出たときにその知識を存分に企業等で有効活用してくれるでしょう。

最後に機械工学実験を快く引き受けてくださいました富岡昌誠先生、大橋勤先生、また実験をアシストしてくれた大学院 工学研究科 修士課程の古橋海威斗さん、松井洋樹さん、関係者の方々に深甚なる謝意を表します。

渡邊慎一研究室(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

「イタリア・アモーレ・ミオ!」で暑さ指数の実測とトークショーを行いました

7月21日(土)、22日(日)に久屋大通公園で開催されたイタリアンフェスティバル「イタリア・アモーレ・ミオ!」において、渡邊慎一教授と渡邊研究室4年 河上崇さん、佐藤祐輔さん



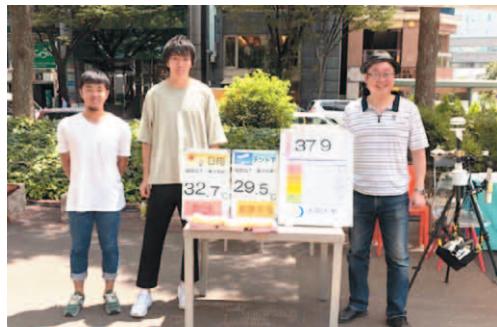
▲トークショーの様子

が日向とテント下の暑さ指数を実測し、パネルで測定値を示すと共に、熱中症予防を呼びかけました。

今回の測定は、イタリア製テントの輸入・販売を行っているスコラロジャパンからの依頼により実施されたものです。

当日は、会場の気温が40℃を越え、来場者の多くが気温の速報値に関心を示しました。また、ステージでは渡邊教授がトーク形式で、熱中症予防をアピールしました。

イタリア・アモーレ・ミオ!について



▲暑さ指数の測定値をパネルで示す様子

中島貴光研究室(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

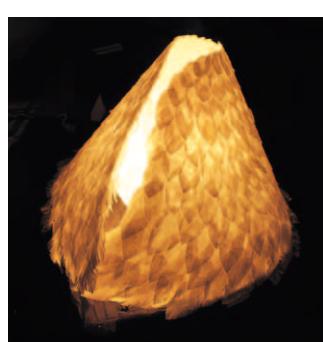
「第25回美濃和紙あかりアート展」に出展し、一部入選しました

10月6日(土)、7日(日)に開催の「第25回美濃和紙あかりアート展」に、中島研究室から4作品出展し、そのうちの4年 清水南海さんが制作した作品が入選しました!



美濃和紙あかりアート展は、「美濃和紙」と「うだつの上がる町並み」を融合し1994年から開催されているイベントで、1300年の伝統を誇る「美濃和紙」を使用するあかりのオブジェを全国公募し、全作品を「うだつの町並み」に展示します。あいにく、台風の影響で、初日は屋内会場での開催となりましたが、

一般部門250点、小中学生部門87点、計337点の作品が展示され、両日合わせて8万人が来場しました。



▲清水さんの作品

美濃和紙あかりアート展HP



建築学科 かおりデザイン専攻 愛知県主催「いいかも!リケイ」 理系女子応援事業 取材ツアー受け入れを実施しました



▲取材ツアーの様子

8月7日(火)に愛知県男女共同参画推進課が主催する「理系女子応援事業」の一環として、女子中高生20名が本学に取材ツアーに訪れ、かおりデザイン専攻で受け入れを実施しました。この事業は女子中高生に理系分野への進学・就職に関心を持ってもらう目的で行われており、女子中高生による県内大学・企業への取材ツアー全5コースが設定され、開催されました。

本学を訪れるコースでは「ニ・オ・イを見る・最新の化学目線」と題し、かおりデザイン専攻の光田恵教授による授業・実験、かおりデザイン専攻に在籍する学生への取材が行われました。

参加者は「におい・かおり」に関する授業・実験を体験し、普段身近に接しているはずの「におい・かおり」について、住環境や食品、病院や工場など世の中の様々な場面に影響を及ぼしていることを実感し、驚いていました。また、本学の学生がどういう理由で大学進学を決定したか、どのような就職先でどのような仕事をするのかなどについて、興味津々に学生にインタビューしていました。

本学を訪れた後は(株)大同分析リサーチを訪問し、大学で学んだ内容が企業でどのように活かされ、事業として展開されているのかを見学しに行きました。

参加者が取材した内容は取材シートに取りまとめられ、12月には取材先大学や企業の女性技術者・研究者によるパネルディスカッションなどを内容とする成果発表会が開催される予定です。

**愛知県の「女性活躍理系女子応援サイト」は
こちら**



建築学科 かおりデザイン専攻 夏休み実験講座でアシスタントを 務めました

8月29日(水)に千葉工業大学にて開催された第31回におい・かおり環境学会のイベントとして、小学生4~6年生を対象に夏休み実験講座が開催され、本学のかおりデザイン専攻の4年生と、



▲実験の様子

大学院 工学研究科 修士課程の大学院生が、実験講座のアシスタント及び、展示ブースの解説をしました。

学生らは、東京学芸大学 萬羽郁子先生の実験講座のアシスタントを務めたほか、かおりデザイン専攻の展示ブースを訪問した小学生に、展示内容を紹介し、におい・かおりについて説明しました。

建築学科 かおりデザイン専攻 はつらつ長寿推進事業にて 学生が講師を務めました

7月23日(月)に善常会リハビリテーション病院で開催された、はつらつ長寿推進事業にかおりデザイン専攻の学生14人が講師として参加しました。

かおりに関する講話、嗅覚検査、フレグランスソルトづくり体験を実施し、参加者から大変好評を得ました。

この取り組みは、介護予防を推進することを目的に名古屋市南区社会福祉協議会が継続して行っている「高齢者はつらつ推進事業」の一環であり、毎年かおりデザイン専攻の学生が講師を務めています。今回リーダーを務めた4年 小崎有紗さんは「緊張しましたが、とても熱心に話を聴いていただけて、メモを取っている方も多くてとても嬉しかったです。終始和やかな雰囲気で楽しんでいただけだと思います。とても貴重な経験でした。」とコメントしました。



▲小崎さんによる講話の様子



▲体験の様子

機械システム工学科/情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 「愛知ブランドを語ろう」森岡副知事との座談会に参加しました

9月5日(水)に愛知県本庁舎にて、森岡仙太副知事との座談会『愛知ブランドを語ろう』に本学の学生3名が参加しました。この座談会は、モノづくり王国愛知県内の優れた企業を認証支援する活動として、愛知県産業振興課が進めている『愛知ブランド事業』が、今年で15周年を迎えたことを機に出版される書籍に掲載するために行われました。参加学生は、愛知ブランド企業に内定している学生、大学院 工学研究科 修士課程 2年 宮本潤示研究室の田中隆太郎さん、総合機械工学科(現 機械システム工学科)4年の伊藤タケルさんと、愛知ブランド企業広報を研究テーマとしている、情報デザイン学科メディアデザイン専攻4年の菅谷杏平さんの3名および、他大学から3名の計6名でした。

彼らにとっては、初めての愛知県本庁舎(しかも特別会議室!)、初めての副知事との対談。県庁職員や編集スタッフなど大勢の人が見守る中、愛知ブランドの魅力や入社後の期待などを、しっかりと自分の言葉で語り、また副知事からの質問にも答えていました。

なおこの内容は、(株)共同通信社から10月15日(月)発刊の『愛知ブランド企業の底チカラVol.2』に掲載されました。また、愛知



ブランドの企業広報研究をテーマとしている情報デザイン学科メディアデザイン専攻 上岡和弘教授もコラムを執筆しました。

情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻/メディアデザイン専攻

白川町の特産ヒノキ(東濃ヒノキ)を使った製品発表会の様子が新聞に取り上げられました

5月29日(火)に白川町役場で岐阜県白川町特産の東濃ヒノキを使った新しい木製品の発表会が行われ、その様子が5月30日(水)付の中日新聞、岐阜新聞で紹介されました。

プロダクトデザイン専攻が専攻内の有志学生を募って取り組んでいる東濃ヒノキの需要拡大と魅力ある製品開発を目標としたプロジェクトは、長い時間をかけて改良生産を重ね、提案した28品目の中から絞った3品目が製品化されました。製品化されたのは、積み木「つみマスクミマス」やポケットティッシュボックス、ネクタイピン・ピンバッジで、今後、木製品の専門店や白川町内の道の駅などで販売され、町のふるさと納税の返礼品にも加わる予定です。

新聞記事では、発表会に参加した方の「ヒノキの香りが楽しめ、手触りも心地よい」という感想や、横山弥生教授がヒノキの年輪をイメージしてデザインした専用のロゴマークやリーフレット、メディアデザイン専攻杉本幸雄研究室が製作したPR映像がお披露目されたことが紹介されています。プロダクトデザイン専攻と白川町は引き続き連携してさらなるヒノキ製品の開発を目指しており、今後の展開が楽しみです。

関連記事：

[白川町の特産ヒノキ\(東濃ヒノキ\)の製品開発プロジェクトで製品化が決定!](#)

岐阜県白川町のPR動画の制作を進めています

(杉本幸雄研究室)



▲5月30日(水)付 中日新聞

▼製品化された3作品



情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 ニューヨークで 有志学生と教職員の作品を 展示しました

9月1日(土)～30日(日)まで、アメリカ ニューヨークのNoLIta地区(North of Little Italy)で開催されたArt Project collaborationの一環として、プロダクトデザイン専攻の有志学生と教職員の作品が展示されました。9月はサン・ジェナーロ祭というお祭りが開催され、この地区は非常に賑わいます。

作品を展示している学生と教職員14名は以下のとおりです。

福田充さん(プロダクトデザイン専攻4年)、油本直也さん、浅井聰馬さん、波多野翔太さん、木全悠輔さん、小林聖命さん、小石遙也さん、大洞優さん、奥村友美さん、大田勇輔さん、上田峻輔さん(以上10名プロダクトデザイン専攻3年)、横山弥生教授、境谷慎吾技術員(以上2名プロダクトデザイン専攻)、太田晶技術員(メディアデザイン専攻)

総合情報学科 経営情報専攻 地域の子どもたちを対象に 「Let'sジュニア体験会」を実施しました

7月21日(土)に本学石井記念体育館にて、経営情報専攻の学生が地域の子どもたちを対象にした「Let'sジュニア体験会」を実施し、好評を得ました。この企画はNPO法人「教育スポーツ競技会アスリート育成塾」が主催する子供向け



スポーツ教室の体験会として、また経営情報専攻の授業「経営実践3」(スポーツ学科)の一環として、大学近隣の小学生以下の子どもたちに、体を動かすことの楽しさを感じてもらったり、基本的な運動動作を身に付けてもらうことを目的に行われました。

体験会では経営情報専攻の学生が子どもたちに優しく丁寧に指導しました。参加した子どもたちは、普段接することのない大学生のお兄さん、お姉さんに教わり、最初は少し緊張していたようですが、すぐに打ち解け、終始楽しそうにしていました。

リーダースキャンプを開催しました

9月6日(木)、7日(金)の2日間にわたり、クラブ委員会主催のリーダースキャンプが開催されました。講師にはラーニングバリュー株式会社の藤田晋先生と加藤久先生をお招きました。

今回のリーダースキャンプでは出席者が各クラブでリーダーシップを發揮するために、“自分らしい”リーダーシップとは何かを実技形式で学びました。



▲講習の様子

韓山師範学院短期留学報告会を行いました

10月26日(金)、本学A棟14階交流室にて、中国・韓山師範学院に短期留学した学生9名による留学報告会が開催されました。

学生たちは、9月2日(日)～15日(土)の2週間、中国広東省・潮州市にある韓山師範学院へ短期留学しました。切り絵や中国画などの中国文化に触れたり、太極拳の実技指導を受けたり、市内見学を行い、中国を肌で感じてきました。

報告会では2グループに分かれそれぞれが、事前調査や現地調査での研究の成果をパワーポイントを使って発表しました。

現地で撮影した写真を使いながら中国(潮州)の建造物や街並み、食文化、産業、現地で感じたことや自分たちで調べたことを発表し、「親切にしてもらうことが多く、人の温かさに触れた」、「貴重な体験となった」と感想を述べました。

留学期間中の現地での様子や学生たちのレポートをブログ形式で大学ホームページに掲載しています。



短期留学ブログはこちらからご覧ください。



▲送出報告会発表の様子

図書館

平成30年度第2回選書ツアーを実施しました

年に2回行われている本学図書館の大好評企画、「選書ツアー」が9月21日(金)に開催されました。選書ツアーは図書館事務員と有志の学生が書店に行って図書館の蔵書となる本を選び、購入する企画です。

今回は14名の学生が参加し、じっくり丁寧に一冊一冊を選んでいました。こうして選ばれ購入された図書は、参加者手製の紹介カード(POP)を付けて図書館1F「選書ツアー図書コーナー」に配架されています。ぜひ手に取ってみてください。



▲選書ツアーでの記念写真

キャリアセンター

保護者向け就職セミナーを開催しました



▲キャリア支援室長による講演の様子

9月8日(土)本学にて、キャリアセンターが昨年度に引き続き、就職活動の開始を間近に控えた学生の保護者を対象に、就活生を持つ保護者が知っておきたい就活のルールや心構え等について伝えることを目的とした、「保護者向け就職セミナー」を開催しました。

これから就職活動本番を迎える3年生や2年生の父兄を中心に103名が参加し、キャリア支援室長による、就職活動の移り変わりと保護者の方々の心構えに関する講演、内定学生によるパネルディスカッション、各学科・専攻ごとにより就職状況・質疑応答が実施されました。

キャリアセンター

男女の性別に合わせた 「身だしなみ講座」を開講しました

7月18日(水)に株式会社資生堂ジャパンとコラボして、女子学生向けに「メイクアップ講座」を、また、7月25日(水)には株式会社マンダムとコラボし、男子学生向けの「身だしなみ講座」をキャリアセンターが開講しました。各講座は昨年度から開講しており、「社会人として好感を持てる身だしなみ」を性別特有のマナーを含めて学ぶことができると、保護者を含めて好評を得ています。

キャリアセンターでは、これまで1年次より段階に合わせた細やかで継続的なキャリア支援を行ってきましたが、昨年度より性別に合わせての講座や、保護者向けの講座を設けることで、ニーズに合わせた支援をさらに充実させています。



▲実習の様子



模型部

秋の展示会を開催しました

10月12日(金)～26日(金)、本学展示室にて模型部が作品展示を行っていました。

今までに作成した作品だけでなく、製作過程の写真や、模型の専門雑誌、解説も合わせて、多くの作品が展示されました。また、最近の活動についても紹介され、活発に活動している様子も垣間見える展示となりました。



▲展示会の様子

大同大学奨励賞 授与式を行いました

10月29日(月)学長室にて、奨励賞 授与式が行われました。奨励賞は研究活動において、特に顕著な業績をおさめたものなど、本学の名誉を高める模範的な行為として認められた者で、学科または学生部が推薦する者が対象となります。

今回は、コンピュータサイエンス専攻 3年 吉見春輝さんに奨励賞が贈られました。吉見さんは、カヌーポロのU-21日本代表選手に2017年と2018年に2年連続で選出され、カヌーポロ世界選手権大会に出場しました。また、大学パンフレットの取材やラジオインタビュー、クラブ委員会が各クラブの幹部を集めて開く部長会議でのミニ講演等に協力・参加しており、本学のイメージアップ等にも大きく貢献したとして、受賞に至りました。

吉見さんは授与式で「いつもご支援をいただき、ありがとうございます。今後も期待に沿えるように練習を頑張りたいと思います。」とコメントしました。



左から:吉見さん、神保睦子学長▶



▲学長室にて記念写真

10/1(月)モータ研究センターが開設されました

10月1日(月)に本学内にモータ研究センターが開設され、運営のための寄付をしている大同特殊鋼株式会社との間で調印式が行われました。

ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車の普及などで、今後も小型・軽量・大出力化のニーズが高まるモータについて、この研究センターではその設計・評価における研究開発とそれを担う学生・大学院生、企業の技術者などの人材育成を行います。担当の本学電気電子工学科の加納善明准教授は「世界を変える新しい発想のモータを開発し、技術者の育成につなげたい」と意気込みを語っていました。

開設については10月18日(木)付の中日新聞でも取り上げられ、今後の研究開発成果に期待が寄せられています。

開設を伝える記事(電子版)はこちら



人 事

●退職

【法人本部・大学】(事務職員)(H30.8.31)
稻垣 幸男 企画調整部 入試・広報室

●採用

【法人本部・大学】(事務職員)(H30.9.1)
伊藤 誠悟 総務部 管財室